



# 糸 図書館ボランティアだより

第14号

きずな

2012年10月 阪南市立図書館サポーター・ブックファン広報部会発行

フサギ

## 目次

自由*空間	「阪南市と神武天皇④」「中国本土の交通事情②」	.... P 2
ご存知ですか	「ブックファン」広報部会	.... P 2
私のおすすめ	『快適生活のススメ』『若おかみは小学生!』	.... P 3
	『よるくま』	.... P 3
図書館からのお知らせ		.... P 4

## 祭りについて



日本の国には全国津々浦々、日々様々な祭りの風景があります。そこには神輿があり、山車、山鉾、だんじりなど、いろいろな形があり、多様な地域性をもって、祭りがおこなわれています。その風景を眺めると、何が人々の心をここまで駆り立てるのかと思わずにはいられません。「祭り」という語には、様々な意味があります。簡単にいえば、神霊を迎え、不浄を避け慎み、食べ物などを供え、饗応することであると言えます。人々が真心を尽くして神を祀ることにより、神意に通じることができると信じられてきました。また実際の祭りは、二つの部分に分けることができます。

一つは神職が奉仕をする神事・祭典の部分。もう一つは、いわゆる神賑わいと言われる部分。神賑わいは、波太神社にはやぐらの曳行・宮入（宵宮）神輿渡御（本宮）が挙げられます。やぐらは、神社が管理運営していません。各地区の財産としてやぐら部屋に保管管理運営しています。昔は、やぐらは地区の田畑を曳行し、食べ物が豊作でありますようにと、祈願されたと思われます。昔は食べ物がなかったら死ぬしかなかったからです。自然の恵みや風水害にならないようにと祈ったのかもしれませんが。日本民族は、八百万の神という言葉に象徴されるように自然や祖先を神として崇敬し、それらを祀る祭祀を連綿とおこなってきました。その営みの中に、神の気配を感じてきたのではないのでしょうか。とくに「祭り」神輿祭り（本宮）の中に、人々が心をついて共に汗を流すことによって神の存在を心で感じ、体で感じるということが具現化されているのではないかと思います。一人の力では動かすことのできない重い神輿を、同じ思いをもった人達が力を合わせ担ぎ上げる、それは非常に大きな労力を必要とします。当日は広い範囲を廻り、昇手達は疲れ切った中であっても、掛け声を張り上げ、無心の行為の中に、神の気配を感じています。その時の昇手達は理屈では、表現できない、金銭に換算することのできない無償の行為として奉仕をしています。その祭りを支える根底にあるものはやはり、秘められた信仰の力であり、まさに神人和楽・神人一体の世界であると思います。

波太神社宮司 葉坂 二郎



「芝」と「塚」、**「芝」と「古墳」**の関係から

前回は「中国では道路も渡れませんが、実は私は信号もない上海の一〇〇メートル道路を走る車の間を抜けて横断しました。渡るコツはまず勇気がある事。決して走らず運転者と目を合わせない事。車が来たらセンターラインの上で待つ事。でもこの呼吸は、相当慣れるまでマネしないでください。命の保証はありませんし、保険金もほとんど出ませんから。」

また上海近郊を車で走っていると、突然車が急ブレーキをかけることがあります。それにはまず橋があります。道路と橋の段差が一〇センチ程あって、知らずに通過すると車はポーンと跳ね上がります。それさえ辛抱すれば田舎の道路は快適、どこまで行ってもどかに走れます。初夏は麦、秋は稲が道路に敷き詰められて、通過する車を利用して脱穀しています。みなさん、観光地ばかりでなく田舎の中国へも行ってみてください。ただし進行方向はなるべく見えないように。心臓に悪いですからね。

前口等

## 自由空間

「ナナツカ参り」の「ツカ」が「芝（シバ）」と関係があることが判明したが、「芝」は「いね科の多年草」であると辞書等に記述され「ツカ」との関係は一切触れられていない。ところが泉南市「ナナツカ参り」では、お供えをした上で「芝」を門前に飾り、ここを起点にしてお参りを始めている。つまり「芝」から「塚」へとという構図が看取できる。

この構図は、阪南市の玉田山古墳群とその南側に位置する「裏芝」という字名とも類似し、言い換えると「(裏)芝」から「古墳(塚)」へとなる。同様に大阪府柏原市の松岳山古墳と卑弥呼の墓とも言われている箸墓古墳が芝山という山の石を葺石(ふきいし)として墓を守っている。阪南市でも「芝」は「塚」とセット関係にあり、そこに神武天皇の事蹟が絡んでいるということは見逃せず、やはり神武天皇が実在した可能性が高く阪南市とも縁があったと指摘しえる。

中川 義朗



## 《ご存知ですか》

## ブックファン「広報部会」

広報部会は図書館ボランティアだより「絆」を2008年4月第1号から年間3回(6月、10月、2月)発行しています。発足当初は3名だった部員も今や9名となり、今年には新年会で楽しく食事をしながら会議をした後、司馬遼太郎記念館や田辺聖子文学館を訪ねました。

編集会議や印刷の作業は、わいわいがやがやにぎやかで楽しいのですが、原稿集め特に「私のおすすめ(本)コーナー」では苦勞をしています。ジャンルは自由(図書館にある本)で×切もありませんので350字程度にまとめたものを図書館のカウンターに届けていただければ助かります。ご協力をお願いします。ボランティアだより「絆」は、図書館の利用者やサポーターの心のつながりとなれる広報紙をめざしていきたくと思っています。日頃の活動を通して率直な思いを綴った原稿もぜひお寄せください。

釣船 廣子

『快適生活のススメ』

山崎えり子 / 著

『少ないモノでゆたかに暮らす』 大原照子 / 著

SK/590

SK/590.4

『若おかみは小学生！』 花の湯温泉ストーリー

令文ヒロ子 / 著

亜沙美 / 絵

講談社 青い鳥文庫

T/14

8巻まで刊行中

現在の、お住まい100%満足されていますか？  
 近年生活様式も変わり、不満を覚える方も多々おられると思います。TVのピアノアフターまでいかななくても、外がしっかりした家なら、専門家に頼まなくても工具も上手に扱い、自分で住み易く変身させている方、すなわち「DIY女子」が増え、それに伴いホームセンター等で使い易い用具、材料を取り揃えているようです。自分で変えた部屋で、自分をほめてやりませんか！

参考になる本・・・その前に快適にする為には最低限必要な家具、物だけを残す仕分けが重要です。一例の本の外にも沢山ありますので、自分に合った本を見つけてスッキリさせた後、同じコーナーにある本を参考にもっと高度な事に楽しみながら挑戦するのはどうでしょうか？



門脇 容子

# 私のおすすめ



東鳥取小学校四年

小川 夏希



わたしが今ハマっている本は、『若おかみは小学生！』です。  
 わたしがこの本を読んだきっかけは、母がこの本の一巻を買ってきてくれて、それを読むとすごくおもしろかったので、ずっと読み続けています。  
 この本は、小学六年生の女の子「おっこ」が春の屋という旅館で小学生おかみ（若おかみ）をしているお話です。でも、「おっこ」はふうこの女の子とちがって、なんとユレーイが見えます！ それに、春の屋旅館には少し変わったお客様が来て、いつもじけんをおこしてしまいます。そのじけんを、「おっこ」とユレーイで力を合わせてかいつつしていきます。  
 おもしろい本なので、ぜひ読んでみてください。

《児童書》



『よるくま』

酒井駒子 / 著  
偕成社 E



親しい人の出産祝には昔から絵本を贈っています。最近では友達のお孫さんに贈ることも多くなりました。誰もが頷く林明子著『きゅっきゅっきゅっ』、ちょっと大きくなった時に読む『よるくま』をまず選びます。『よるくま』は真っ暗な夜の子どもたちの不安に上手に寄りそった絵本です。そしてあと一冊はその時々によって変わりますが、古典絵本から選びます。絵本は二十年以上読み継がれている本を与えましょうと昔勉強会で教わりました。

最近孫に、娘と楽しんだ『てぶくろ』『タンタンのハンカチ』『とらたとまるた』を読みきかせたら声をあげて喜びました。世の中の移り変わりの激しさにも、幼い心は変わらないのだと改めて感じ嬉しくなりました。もう少し大きくなった子どもたちに、大好きなエッツやカリジェの絵本をまた贈りたいと、夢は広がっています。

黒見 泰



## 6月24日(日)に本のサイクルがおこなわれました

提供冊数は5,768冊。そのうち1,992冊がもらわれていきました。

◎入場数 279人 + 団体 2 (住金団地自治会・玉田山福祉会)

◎受取人数 237人 団体 2

◎受取冊数  1901冊  91冊 計 1992冊

ご参加ありがとうございました。(延べ46人のサポーターの方が手伝っていただきました)

**11月4日(日)、平成25年2月2日(土)\*にもサイクルをおこないます。**

\*2013年2月2日開催の「本と雑誌のサイクル」9:30~15:00では、参加者からのご要望に応え、試みとして13時以降の入場者には冊数制限なしで本をお譲りすることを計画中です。奮ってご参加ください!

## 阪南市立図書館は全国第9位です

毎年出版される『図書館年鑑』という本の2012年版・統計のページからの報告です。人口別でまとめた「市区町村立図書館の館外個人貸出冊数」。これは図書館にとって、利用度のバロメータと言えます。今年阪南市立図書館は、人口5万以上6万未満の83市区の中で個人貸出が第9位(2011年は11位)で、冊数は49万4千冊でした。

貸出冊数=返却冊数、49万4千冊は再びの利用を待つため棚に戻さなければなりません。この地道な作業に多くのサポーターの方が携わってくださっています。開館前や月末の資料整理日が活動時間です。利用しない分野の本に触れる機会として喜んでくださる方もおられます。サポーターはいつからでも参加可能です。興味をもたれた方は、図書館にお問い合わせください。

予約受付件数は第3位。こちらについては、手放しでは喜ばないところもあります。読みたい本がすぐ読めれば、予約する必要はないですから。あきらめて図書館を利用してくれないことよりずっとは嬉しいのですが、ちょっと複雑です。資料費や蔵書冊数は今年もベスト10入りしていないにもかかわらず、皆様のご愛顧を賜り感謝感激です。これからもよろしく願いいたします。

## としょかん川柳を募集しました

本や読書など図書館に関する川柳“としょせん”。百通近くご投稿いただきました。なんと岐阜、栃木、広島など遠くからの郵送参加もありました。作品は11月、図書館の誕生日企画として掲示させていただきます。また新年には、市役所ロビーにてお披露目する予定です。お楽しみに。